

平成31年度地方税制改正（税負担軽減措置等）要望事項

（新設・**拡充**・延長・その他）

No	34	府省庁名	経済産業省
----	----	------	-------

対象税目	個人住民税 法人住民税 事業税 不動産取得税 固定資産税 事業所税 その他（ ）
------	---

要望項目名	復興産業集積区域における機械及び装置、建物及びその附属設備並びに構築物の特別償却等の特例措置の拡充
-------	---

要望内容（概要）

- ・特例措置の対象（支援措置を必要とする制度の概要）
- 平成33年3月31日までの間に、認定地方公共団体の指定を受けた個人事業者又は法人が復興産業集積区域において取得等し事業の用に供した機械・装置及び建物等について、特別償却又は税額控除ができる。

	特別償却の割合		税額控除の割合	
取得時期	～31年3月31日	31年4月1日～33年3月31日	～31年3月31日	31年4月1日～33年3月31日
機械・装置	50% (福島県:即時償却)	34% (福島県:即時償却)	15%	10% (福島県 15%)
建物・構築物	25%	17% (福島県 25%)	8%	6% (福島県 8%)

（制度経緯）

- ・平成23年度 創設
- ・平成26年度 機械及び装置の即時償却の適用期限を2年間（平成26年4月1日～28年3月31日）延長
- ・平成28年度 福島県以外の措置率を見直したうえ適用期限を5年延長

・特例措置の内容

本特例措置について、津波被災地域（雇用等被害地域を含む市町村の区域内）に限り、平成31年4月1日から平成33年3月31日までの間に取得等し事業の用に供した機械・装置及び建物等について、平成31年3月31日までに取得等したものと同一特別償却又は税額控除の率に拡充する。

	特別償却の割合		税額控除の割合	
取得時期	～31年3月31日	31年4月1日～33年3月31日	～31年3月31日	31年4月1日～33年3月31日
機械・装置	50% (福島県:即時償却)	<u>50%</u> ・34% (福島県:即時償却)	15%	<u>15%</u> ・10% (福島県 15%)
建物・構築物	25%	<u>25%</u> ・17% (福島県 25%)	8%	<u>8%</u> ・6% (福島県 8%)

・下線は雇用等被害地域を含む市町村の区域内に限る。

※雇用等被害地域

東日本大震災復興特別区域法第2条第3項第2号イに規定する「東日本大震災により多数の被災者が離職を余儀なくされ、又は生産活動の基盤に著しい被害を受けた地域」。認定復興推進計画において雇用等被害地域が定められており、復興産業集積区域が存在する143市町村のうち、沿岸部の35市町村に雇用等被害地域が定められている。

関係条文	<ul style="list-style-type: none"> ○東日本大震災復興特別区域法第37条 ○東日本大震災の被災者等に係る国税関係法律の臨時特例に関する法律第10条の2、第17条の2及び第25条の2 ○同政令第17条の2 ○地方税法第23条第1項第4号、第292条第1項第4号
------	--

減収 見込額	初年度] ▲454 (-) [平年度] ▲454 (-) [改正増減収額] - (単位：百万円)
要望理由	<p>(1) 政策目的</p> <p>地震・津波被災地域では、インフラ等の復旧が着実に進む一方、産業・なりわいの再生は未だ十分とは言えないことから、復興の「総仕上げ」に向け、投資を促進し、雇用機会の確保を十分に図る必要がある。</p> <p>また、福島原子力事故災害被災地域では、帰還困難区域を除き全ての面的除染が完了し、同地域を除くほとんどの地域で避難指示解除がなされるなど、本格的な再生・復興に向けスタートを切ったところであり、引き続き、官民合同チーム等による支援を通じ被災事業者等の事業再開等を支援していく必要がある。</p> <p>(2) 施策の必要性</p> <p>①事業活動の状況</p> <p>岩手県、宮城県及び福島県における事業所数を市町村別にみると、特に沿岸部は全国に比べ厳しい状況が続いており、(工業統計「事業所数」H29.6/H22.12：3県沿岸等79%。全国平均85%)非常に厳しい状況にある市町村が存在するところ。(同比、気仙沼市63%、女川町64%、陸前高田市71%、大槌町75%等)</p> <p>また、企業の事業再開状況については、各県調査によれば、岩手県84%(H29.8)、宮城県80%(H30.3)、福島県66%(H30.3)となっており、中小機構仮施設入居事業者等状況調査(H30.3)によれば、仮施設入居事業者の今後に関して(回答事業者数1,474者)、廃止前又は廃止時に本設移転と回答した事業者が343者、再譲渡等により事業継続と回答した事業者が586者いるという状況にある。</p> <p>岩手県、宮城県及び福島県における製造品出荷額を市町村別にみると、特に沿岸部は全国に比べ厳しい状況が続いており、(工業統計「製造品出荷額」H28/H22：3県沿岸等89%。全国平均104%)非常に厳しい状況にある市町村が存在するところ。(同比、女川町49%、気仙沼市71%、大槌町73%、山元町76%等)また、東北経済産業局が実施したグループ補助金交付先アンケート調査(H29.6)では、現在の売上状況が震災直前の水準以上まで「回復している」とした企業の割合は、45%と半数に満たない。</p> <p>②雇用の状況</p> <p>岩手県、宮城県及び福島県における従業者数を市町村別にみると、特に沿岸部は全国に比べ厳しい状況が続いており、(工業統計「従業者数」H29.6/H22.12：3県沿岸等86%。全国平均99%)非常に厳しい状況にある市町村が存在するところ。(同比、大槌町52%、気仙沼市60%、陸前高田市67%、女川町67%等)</p> <p>③面整備の状況</p> <p>事業を行うために必要となる産業用地の供給予定については、岩手県、宮城県及び福島県の沿岸部等で、平成30年以降、約480haの産業用地が供給予定となっている。</p> <p>また、復興道路・復興支援道路は、平成30年3月現在で約6割が供給済みであり、防潮堤等の海岸対策事業の完了割合は約5割となっている。</p> <p>こうした被災地における経済社会情勢を踏まえると、被災地の経済活性化に必要な産業の本格的な復興については引き続き取り組まなければならない課題である。</p> <p>このため、事業者等の設備投資を支援し産業復興の下支えをすることは依然必要であり、上述の様な、事業活動の状況、雇用の状況、産業用地の供給状況を勘案し、地方公共団体からの要望や与党提言等を踏まえ、本特例措置について津波被災地域(雇用等被害地域を含む市町村の区域内)における特別償却率及び税額控除率について、平成31年3月31日までの率を、平成33年3月31日まで適用することを要望する。</p>
本要望に 対応する 縮減案	-

合理性	政策体系における政策目的の位置付け	中小企業・地域経済 福島・震災復興
	政策の達成目標	津波被災地域（雇用等被害地域を含む市町村の区域内）において投資を行う事業者の増加
	税負担軽減措置等の適用又は延長期間	2年間（平成31年4月1日から平成33年3月31日まで）
	同上の期間中の達成目標	政策の達成目標に同じ
	政策目標の達成状況	平成29年度中までに復興特区法第37条に基づき指定を受けた件数 件数（平成30年3月末） 法人 2,508件 個人 280件 （合計2,788件） うち津波被災地域（雇用等被害地域を含む市町村の区域内）における件数 法人 1,198件 個人 215件 （合計1,413件）
有効性	要望の措置の適用見込み	平成31年度 71件 平成32年度 57件 2年計 128件 ※雇用等被害地域を含む市町村の区域内に限る
	要望の措置の効果見込み（手段としての有効性）	本特例措置を拡充することにより、津波被災地域（雇用等被害地域を含む市町村の区域内）における機械装置及び建物・構築物への設備投資を促進し、雇用機会の確保に資することができる。
相当性	当該要望項目以外の税制上の支援措置	他の復興特区税制に基づく措置（復興特区法第38条から第40条まで）
	予算上の措置等の要求内容及び金額	—
	上記の予算上の措置等と要望項目との関係	—
	要望の措置の妥当性	本特例措置の拡充は、津波被災地域（雇用等被害地域を含む市町村の区域内）に限定した上で、更に、復興推進のため地域に集積を目指す業種かつ事業の用に供されたことのない新規の設備投資に限定されており、政策目的達成手段として妥当である。

<p>税負担軽減措置等の適用実績</p>	<p>平成 29 年度までの復興特区法第 37 条に基づく指定の件数は以下のとおり。 件数（平成 30 年 3 月末） 法人 2,508 件 個人 280 件 （合計 2,788 件）</p>																																
<p>「地方税における税負担軽減措置等の適用状況等に関する報告書」における適用実績</p>	<p>—</p>																																
<p>税負担軽減措置等の適用による効果（手段としての有効性）</p>	<p>本特例措置を通じて被災地において、事業用設備の投資を促進し、雇用機会の確保に資することができる。</p>																																
<p>前回要望時の達成目標</p>	<p>復興産業集積区域において設備投資を行う事業者の増加</p>																																
<p>前回要望時からの達成度及び目標に達していない場合の理由</p>	<p>前回要望時の指定件数の見込を概ね達成しつつある。</p> <p>○前回要望時の見込み（指定件数）</p> <table border="1" data-bbox="384 1021 1126 1182"> <thead> <tr> <th></th> <th>法人</th> <th>個人</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 28 年度</td> <td>252</td> <td>58</td> <td>310</td> </tr> <tr> <td>平成 29 年度</td> <td>202</td> <td>46</td> <td>248</td> </tr> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>161</td> <td>37</td> <td>198</td> </tr> </tbody> </table> <p>○平成 28、29 年度の実績と平成 30 年度の見込み（同）</p> <table border="1" data-bbox="384 1256 1126 1420"> <thead> <tr> <th></th> <th>法人</th> <th>個人</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 28 年度（実績）</td> <td>270</td> <td>22</td> <td>292</td> </tr> <tr> <td>平成 29 年度（実績）</td> <td>203</td> <td>35</td> <td>238</td> </tr> <tr> <td>平成 30 年度（見込み）</td> <td>166</td> <td>27</td> <td>193</td> </tr> </tbody> </table>		法人	個人	合計	平成 28 年度	252	58	310	平成 29 年度	202	46	248	平成 30 年度	161	37	198		法人	個人	合計	平成 28 年度（実績）	270	22	292	平成 29 年度（実績）	203	35	238	平成 30 年度（見込み）	166	27	193
	法人	個人	合計																														
平成 28 年度	252	58	310																														
平成 29 年度	202	46	248																														
平成 30 年度	161	37	198																														
	法人	個人	合計																														
平成 28 年度（実績）	270	22	292																														
平成 29 年度（実績）	203	35	238																														
平成 30 年度（見込み）	166	27	193																														
<p>これまでの要望経緯</p>	<p>平成 23 年度 創設 平成 26 年度 機械及び装置の即時償却の適用期限を 2 年間（平成 26 年 4 月 1 日～28 年 3 月 31 日）延長 平成 28 年度 措置率を見直したうえ適用期限を 5 年延長</p>																																
<p>ページ</p>	<p>34—4</p>																																